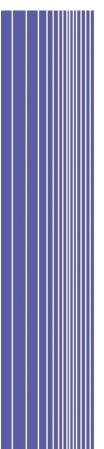


2019年9月1日発行 通巻460号 発行 日本オーディオ協会

2019

Vol.59 No.5

9



○ 連載:「私とオーディオの出会い」 Wol.8

会長 小川 理子

〇 ドルビーシネマ紹介

Dolby Japan(株) 代表取締役社長 大沢 幸弘

O 台湾 Hi-End Audio ショー 訪問記

専務理事 森美裕

〇 編集後記

編集委員 吉野 修一











# CONTENTS

○ 連載:「私とオーディオの出会い」Vol.8

会長小川理子

P3

P5

〇 ドルビーシネマ紹介 Dolby Japan (株) 代表取締役社長 大沢 幸弘

○ 台湾Hi-EndAudioショー 訪問記

専務理事 森美裕 P15

つ 編集後記

編集委員 吉野 修一 P22

(通巻 460 号) 2019 Vol.59 No.5 (9 月号)

# 9月号をお届けするにあたって

気が付けば秋分の日も過ぎ、朝晩の気温が 20 でを下回る日も出て日中との寒暖差が大きく、やっと秋らしさが増してきました。

今月号では Dolby Japan の大沢様に、ドルビーシネマの紹介記事を寄稿いただきました。ドルビーアトモス、ドルビービジョンの 2 大技術と、特徴的な劇場デザインのコンセプトについて、詳細にご紹介頂いています。読むだけで没入感のある映像と音に包まれてゆく感覚を覚えました。ドルビーシネマスクリーン対応の映画館のご紹介があり早速足を運びたくなりました。また、ホームシアターを構築する際に参考になる情報も紹介頂いており、活用いただけるものと思います。

また、8月15~18日に台北で開催された、台湾オーディオ協会主催の「Hi-End Audio ショー」を協会の森専務理事が訪問しました。このレポートをお届けします。台湾のオーディオファンはなかなか熱いようで、その熱気が伝わってくるようです。

さらには、既にお馴染みとなりました小川会長の連載「私とオーディオの出会い」も8回目を迎えました。確かに若い世代の音楽に対する鋭い感覚には確かに驚かされますが、その理由がしっかり腹落ちした感じがあります。

秋の夜長、映画館で最新フォーマットの映像・音響を体感するのもよし、家のシアター、オーディオシステムをゆったり愉しむのもよし。またよい季節が廻ってきましたね。

# 【連載:「私とオーディオの出会い」Vol.8】

一般社団法人日本オーディオ協会

会長 小川 理子

最近のヒット曲はメロディもリズムも難しいものが多い。口ずさもうと思っても音程もフレーズも相当リピートして聴かないと覚えられない。音感が発達している方の私でさえもそうなので、 きっと昭和な私と同世代の方々も同じ感覚をおもちだろうとお察しする。

百恵ちゃんからキャンディーズ、ピンクレディ、聖子ちゃん、はたまた、ユーミン、チューリップからオフコース、サザン、はたまた、かぐや姫、拓郎、陽水、などなど、昭和の歌は今も楽しく懐かしく聴いたり歌ったりするが、ノリという感覚がだいたい自分の身体リズムに合っている。たぶんバブル期、小室さんあたりから、ビートが激しくなり、ダンスとともに、リズムの変化やテンポの速さが極まってきたのではないかと思う。

ちょうど 2000 年の頃だったか、ボランティアで小学校に音楽の課外授業をしに行ったことがある。児童たちに、教室のピアノでトルコ行進曲を弾いてあげたら、クラスの全員が、もっと速く弾いて、と言った。私はそれを聞いて、かなりテンポを速めたが、もっと速く、もっと速く、と言いだした。それじゃあ、ということでモーツアルトが失神を起こすくらい思いきり速くしたら、みんなきゃあきゃあ言って嬉しがって面白がって教室中を走りだした。身体全体をそのテンポと同じくらいの速さで動かして走り回っている。うーん、モーツアルトのトルコ行進曲の原曲を知ってか知らずか、ネットの進歩で情報伝達が速くなるのと比例して、きっと何もかもが速度を要求されるようになったのだ。映画の展開だって、昔の名画は1本のストーリーの中に、起承転結が一つ構成される、つまり山場は一つであるが、今では展開のスピード感が観客の要求にあっていなければ満足されないので、これでもかこれでもかと変化が起こる。

先日、地下鉄に乗っていて、目を見張ったことがある。

中学生くらいの女子二人、仲良し二人組といった感じだったが、地下鉄の扉のガラスの前に立ち、ダンスの練習をしだした。スマホの音源から、イヤホンを二人の片耳ずつに入れて聞きながら、何か学校のイベントで披露するのか、ダンスシーケンスを確認するように小振りで動いている。が、完璧にシンクロしている。それも、波に乗って楽しく泳いでいるかのように、くねくねと身体をくねらせて、ワンフレーズがとにかく長いが、途切れることなく、かっこよくきまっている。うーん、私の弾くジャズを聴きながら、盆踊りと同じ2拍子で手拍子をするおじいちゃんたちが見たらどう思うだろうなあ。。。。。。とか、明治大正昭和、が、昭和平成令和になったと思えばいいのだ、とか、頭の中でそんなことを思って一人笑みをこぼしていた。

さて最近のヒット曲の話に戻そう。ちょうどラグビーワールドカップが始まったが、毎週スカッとさわやかにテレビで企業スポーツとラグビーの関係性の中で様々な人間ドラマを演じてくれる「ノーサイド・ゲーム」の主題歌、米津玄師さんの「馬と鹿」がオリコンチャートトップをと

り続けている。おなじ米津さんの「檸檬」も大ヒットしたが、これなども難曲であり、歌唱力を競う番組の課題曲にもなった。しかしながら、今どきの若い子たちは、難なく歌っている。聞くところによると、今の小学校には音楽教室がないところも多く、あったとしてもバッハ、ベートーベン、モーツアルトなど楽聖の顔を描いた額絵なんて飾ってないよ、とのこと。また、そういうクラシック音楽もレコードや CD などで再生されることはほとんどない、とのこと。つまり、いわゆるクラシック音楽の起承転結のスピードだと、You Tube の 15 秒動画に慣れきった子どもたちには、ハアだるいだるい、ということになるんだろう。しかしモーツアルトだって当時の音楽の展開のスピード感を変革したのだし、令和の子どもたちは、あんなに難解な曲を歌えて、あんなに難解なダンスを踊れるんだから、きっとその歴史や時代背景とともに現代との比較を交えて面白く伝えたら、クラシック音楽がクールに感じられるかもしれない。

# 次回に続く。。。

# ドルビーシネマ紹介

Dolby Japan(株) 代表取締役社長 大沢 幸弘



## 概要

「ドルビーシネマ」とは、「ドルビーラボラトリーズ (Dolby Laboratories, Inc.)」(以下、ドルビー)が開発した、最新のシネマフォーマットです。

制作者の意図を劇場内で忠実に再現し、観客が映画の作品に入り込んでしまったかのような没入感を体感できる、究極のシネマ体験を目指したものです。

「ドルビーシネマ」は、「心揺さぶるオーディオ」、「ドラマチックな映像」、「究極のシアターデザイン」という3つの要素によって構成されます。

本稿では、これらを実現するコンセプトや技術にについて概要を説明いたします。

# ABSTRACT

Dolby Cinema is the latest Cinema format which Dolby Laboratories, Inc. is offering.

Movie creators have the ability to deliver more impactful stories. Such creators' intention can be reproduced precisely in the auditorium. Audiences enjoy the spectacular and immersive cinema experiences as if they were in the story.

Dolby Cinema has three key elements, "Moving Audio", "Dramatic Imaging" and "Inspired Design".

This article introduces the overview of Dolby Cinema's technologies.

## 1 はじめに

映像・音響技術の急速な進化を採り入れた家庭用機器、多様なデバイスへの拡がり、そして配信サービスの拡充により、今や家庭内のホームシアター環境に留まらず、あらゆる場所で最新技術を採り入れたエンターテインメントを楽しめるようになってきました。

一方、映画館ならではの楽しみを追求した劇場改革も進んでおり、アトラクション要素を取り入れた体感型や、豪華な椅子を導入した快適空間演出等、多くの工夫がなされています。

また、より高品質な上映体験を目指したプレミアム・ラージ・フォーマット(以下、PLF)と呼ばれる劇場が世界的に増え続けており、全体の興行収入に占める割合も大きくなり始めています。競争激化する PLF の市場の中で、究極のシネマ体験を目指して開発されたものが、「ドルビーシネマ」です。

音響システムには、立体音響技術「Dolby Atmos®(ドルビーアトモス)」を採用しています。「ドルビーアトモス」は、既に全世界で 4,800 以上のスクリーンに導入済か導入予定で、1,300 以上の公開作品に採用されています。「ドルビーアトモス」により、映画制作者は、劇場の隅々に、サウンドを配置し、自由に移動させることができます。観客が、その映画の中に入り込んでしまったかのような、臨場感を創り出します。

映像には、最新鋭の HDR(High Dynamic Range)映像技術「Dolby Vision®(ドルビービジョン)」を採用しています。最先端のレーザープロジェクタを使用し、肉眼では捉えられる実世界のイメージに、一段と近づけるため、輝度はより明るく、暗さは更に深く、黒が締まることによって、自然な立体感を伴った、色彩豊かな映像を実現します。

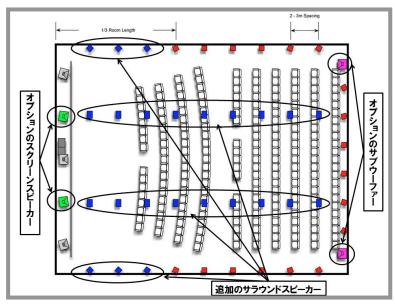
そして、「ドルビーアトモス」「ドルビービジョン」の効果を最大限に活かすべく、また、観客が作品に没入して体験してもらえるように、「劇場デザイン・環境」の細かい点に気配りをしています。

次章以降に、「ドルビーシネマ」の三大要素、「ドルビーアトモス」「ドルビービジョン」「劇場デザイン・環境」について紹介していきます。

# 2 「ドルビーシネマ」の三大特長について

#### 2.1 「ドルビーアトモス」について

「ドルビーアトモス」は 2012 年に上映された「メリダとおそろしの森」に、初めて採用されました。「ドルビーアトモス」の再生には専用のレンダリング機能を持つプロセッサと、天井に 2 列、スクリーンからサイドを繋ぐ左右、そしてサラウンド スピーカの低域周波数を補完するサブウーファ(サラウンド スピーカが 40Hz まで再生できるなら不要)、幅 8 メートルを超えるスクリーンでは左右とセンターとの間にスピーカが追加された、「ドルビーアトモス」のスピーカ配置が必要です。



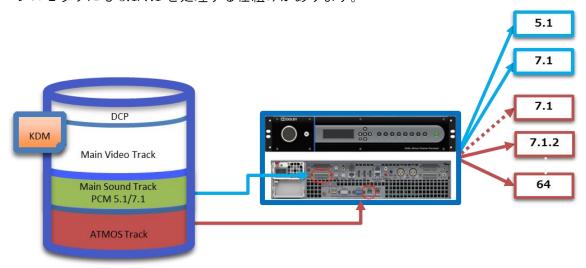
(図1)映画館のアトモススピーカ位置の一例

そして、各スピーカは専用のアンプで独立駆動され、アンプ個々に異なる音声入力がプロセッサから提供されます。つまりスピーカ分の異なる音声が出力されるということです。

これほど、従来の映画音響から大きな技術革新を行う必要があった理由は、これまでの映画音響の課題とされた部分を解消するためでした。

- 上下左右方向の正確な音声移動。
- スクリーンからリアウォールまでスムーズな音像移動と音色の統一。
- 移動時の音像の大きさの均一化。
- 劇場ごとに異なる容積やプロポーションへの対応。
- 5.1/7.1ch 映画との再生互換性。

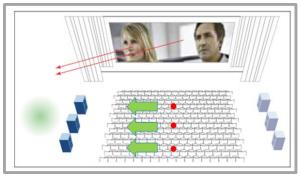
スムーズな音像移動を解決するためには、視聴者がスピーカ間を移動する音像にギャップを感じることがないスピーカの位置を定義する必要があります。このスピーカ位置は映画館ごとに、設計図面などの資料を基に最適化します。音色の統一の為には、映画館の全てのスピーカの再生周波数帯域と音圧を揃える為に、プロセッサにはスピーカ位置とアンプゲインやスピーカ性能が入力されています。スピーカ位置は 5.1/7.1ch 映画との互換性を確保し、DCP(Digital Cinema Package)に従来音声と「ドルビーアトモス」音声が同時に記録でき、プロセッサにも 5.1/7.1 を処理する仕組みがあります。

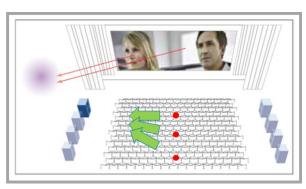


(図2)DCPの記録内容と再生

「ドルビーアトモス」以前の音響は 5.1/7.1 チャンネルベースのサラウンドでしたので、スピーカは少なくともチャンネル以上の数があれば良いということになります。しかし「ドルビーアトモス」では映画館ごとにスピーカ位置や数が異なる上に、音声出力数もスピーカ数分となるので、これまでのチャンネルベースのミックスを拡張する方法では対応しきれません。分かりやすく言うとミックスの数が映画館分必要になってしまう、こんなことは避ける必要があります。そのため「ドルビーアトモス」ではオブジェクトベースのミックス手法を採用しました。チャンネルベースミックスは音声出力をスピーカ=チャンネルと扱う手法

ですが、オブジェクトベースはその音声に特定のチャンネルつまりスピーカを割り当てません。音源には必ず再生される位置を xyz 座標として記録したメタデータを付けて、映画館のプロセッサでレンダリングできる状態にしています。これがオブジェクトです。これにより、アトモス映画館ごとに異なるスピーカレイアウトでもプロセッサが適切にレンダリングしてその音像位置を制作者意図のまま再現させることができます。しかし、オブジェクトベースミックスだけで、映画音響の効果を効率よく演出することができるわけではありません。実は「ドルビーアトモス」の為にチャンネルベースも活用します。「ドルビーアトモス」は双方のミックス手法の良いとこを引き出せる音声仕様となっています。例えば、「ドルビーアトモス」のスピーカ配置を 7.1.2ch として扱うチャンネル(Bed)では、スピーカはアレイとしてそのチャンネルを担当しますので、カバーエリアの確保や定位があいまいでも包み込まれる音声に効果的です。一方オブジェクト(Object)はすべての観客に音像位置を意識させるような効果があります。





チャンネル

オブジェクト

(図3)チャンネルベースとオブジェクトベース

再生環境の提案と同時にドルビーは制作環境も整えました。映画音響制作に欠かせないデジタル オーディオ ワークステーション (DAW) を開発するメーカとの開発協力を得て、標準機能+追加ソフト (3万円強) で「ドルビーアトモス」の Bed や Object をミックスすることができます。映画館用「ドルビーアトモス」音響制作のファイナライズはダビングステージで、家庭用「ドルビーアトモス」音響制作はニアフィールドモニターのマスタリングステージで行っていただくことになります。この時使用する制作ツールには 5.1/7.1 の音声を書き出す機能もあり、制作効率を良くしてコストを抑えることにも配慮しました。

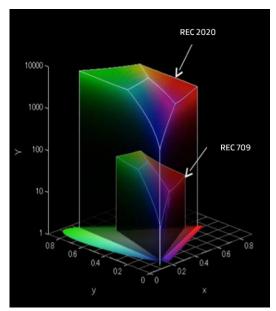
# 2.2 「ドルビービジョン」について

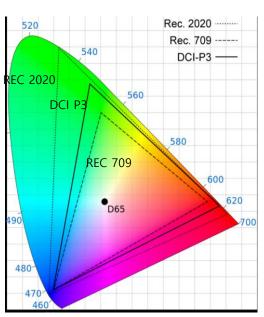
HDR の映像を映画館で再生させる仕組みが、映画館用「ドルビービジョン」です。映画館用の「ドルビービジョン」は、制作・伝送・再生の仕組みを提案し、制作者の意図を正しく再現することができる家庭用の「ドルビービジョン」と基礎となる技術は同じです。

「ドルビービジョン」の HDR 映像とは、これまでの光<->電気変換に使用されていたガンマ係数を、0-10000nit(nit = カンデラ/平方メートル)を扱える絶対光量のコードを割り当て SMPTE で基準化(SMPTE ST2084)された PQ(呼称)に置き換え、これまでの ITU-R BT.709(以下、Rec709)(0.117-100nit)に比べ、100 倍以上の広いダイナミックレンジを獲得しました。高画質化の手法である解像度やフレームレートの向上は時間や空間の画素数(ピクセル)の数を増やし高画質を目指しますが、HDR はピクセル毎の質を上げて高画質を獲得する手法ですので、2/4/8k や 30/60p などの技術と併用することができます。しかも情報量は Rec709 の 8/10bit に代わって PQ の 12bit に増加するだけですので 2-3 割増し程度、2k から 4k へのデータ増加である 4 倍ほどもありません。

それにもかかわらず HDR の効果はディスプレから離れても認識することができる為、制作設備的負荷の少ない効率的な高画質手法です







(図 4) Rec709、DCI-P3 と ST2084/Rec2020

映画館に設置されるプロジェクタは、PQ と ITU-R BT.2020(以下、Rec2020)の色域を持つ映像信号を入力することができますので、DCI 規格より広い輝度と色域で上映することが可能になります。映画館用「ドルビービジョン」では最高輝度を 108nit としています。これで全暗を可能にするドルビーシネマでは十分に眩しさを表現できます。PQ の特性にみられるように人間視覚の特徴として暗部の輝度識別は高輝度部より優れているため、映画的での暗部の表現にご活用いただけるように、「ドルビービジョン」用レーザープロジェクタには1,000,000:1 のコントラスト比を実現する設計となっています。「ドルビービジョン」の劇場用トレーラでは一般的な DLP プロジェクタのコントラスト比での黒映像を出し、「ドルビービジョン」の黒 0.0001nit との対比をご披露していますので、ご覧いただいた方には暗部諧調の表現力をご理解いただけていると思います。

この広いダイナミックレンジと色域を活用できる「ドルビービジョン」映画作品のカラーグレーディング作業では、映画館と同一仕様のプロジェクタを使用します。制作環境と上映設備の機器統一により、「ドルビーシネマ」では制作者の意図を正確に上映させることができます。



Dolby Vision Mastering Projector

Available only from Dolby for Dolby Cinema Titles

#### 2D Specs

- 108 Nits Peak Brightness
- Rec 2020 Color Gamut
- 1,000,000:1 C/R
- SMPTE 2084

#### 3D Specs

- 48 Nits Peak Brightness per eye
- Rec 2020 Color Gamut
- 1,000,000:1 C/R
- SMPTE 2084

(図5) ドルビービジョンレーザープロジェクタ

一方、OTT 配信等で活用されている家庭用「ドルビービジョン」信号は、HDR の映像に 民生用 TV での再生時に最適な映像とする為のメタデータを持っています。メタデータは制 作者の操作の元、クリップ/シーン/フレーム等の単位で更新させることが可能な 3 つの値か ら構成されます。輝度の最大値/平均値/最小値です。この値をカラーグレーディングが完了 した HDR 素材を解析して発行させます。生成されたメタデータは家庭用の「ドルビービジ ョン」デコーダ内蔵 TV まで映像信号とともに届けられ、TV のデバイスの性能に最適化さ れた HDR にマッピングダウンされます。このリマッピングに使用されるアルゴリズムはド ルビーが製品開発用に提供していますので、制作者も HDR 素材を解析して発行されたメタ データと「ドルビービジョン」制作ツールを使用しながら、マッピングダウン後の映像をグ レーディング環境下で確認することが可能です。このメタデータは解析結果以外にリマッピ ングのコントロールパラメータを用意して、制作者が HDR 素材に手を加えることなくマッ ピング後の映像だけを調整することも可能です。この作業で完成されたメタデータは、家庭 用の TV がリマッピングに使用するだけでなく、制作現場で HDR から SDR(Standard Dynamic Range)へ変換する際にも使用することが可能です。HDR が導入されて間もない今 日時点では、SDR マスターはまだ不可欠です。SDR を HDR マスターから生成する作業に おいて、「ドルビービジョン」メタデータを活用すれば、時間やコストを抑えることができま す。

# 2.3 「ドルビーシネマ」の劇場デザインについて

「ドルビーシネマ」では、無駄を極力排し、観客が作品のみに集中・没入できる環境をコンセプトにしています。入り口から劇場内まで、黒を基調とし、「ドルビーブルー」と呼ぶ青の LED ライトのみが光るシンプルなデザインになっており、「ドルビーアトモス」の為に、左右の壁、天井に設置されたスピーカも、「コクーン」と呼ばれる音響透過布で覆い、可能な限り見えないようにしています。

「ドルビーアトモス」を最高の環境でお楽しみいただく為の性能要件も、「ドルビー」によって規定されています。壁は全面吸音加工し、吸音材の厚さ・劇場内の騒音、遮音性能等が仕様化されています。

「ドルビービジョン」プロジェクションシステムによる、ハイコントラストで色彩豊かな表現、特に優れた暗部表現を忠実に再現する為に、スクリーンへの反射には非常に気を遣っております。座席・カーペット・手すり等の劇場内の素材は黒の艶消しとし、ステップライトの照明輝度も性能要件として仕様化されています。



(図 6)「ドルビーシネマ」劇場内イメージ

座席配置に関する必要要件も仕様化されており、垂直・水平視野角を考慮したレイアウトにより、どの座席からでも等しく最高の作品体験ができるように工夫しています。

そして、「ドルビーシネマ」の必要要件ではありませんが、入り口に AVP(オーディオ・ビジュアル・パスウェイ)と呼ばれる、音響映像通路をオプションとして設置します。ここでは上映作品をイメージした専用映像を投射する事により、観客がこれから鑑賞する作品への期待感を高めてもらい、入り口から作品の世界に没入していただく効果を演出します。

このように、「ドルビーシネマ」では、最新鋭の音響・映像技術に加えて、劇場デザインも 重要な構成要素となっています。



(図7) AVP(オーディオ・ビジュアル・パスウェイ)

# 3 「ドルビーアトモス」、「ドルビービジョン」の家庭用向け展開について

「ドルビーシネマ」による究極のシネマ体験が、家庭のリビングルームやモバイル端末でも楽しめるようになっています。それは「ドルビーシネマ」の構成要素技術である「ドルビーアトモス」と「ドルビービジョン」が身近な AV 家電製品やモバイル機器に搭載が進んでいるからです。本日現在、以下のメーカ製品に導入されており、消費者の選択肢も充実してきています。

例えば、「ドルビービジョン」対応テレビと「ドルビーアトモス」対応サウンドバーを揃えれば、コントラストの効いた色彩豊かなリアリティ溢れる映像と立体的な音響に包まれた臨場感のある体験が家庭で味わえます。「ドルビービジョン」に加えて、「ドルビーアトモス」に対応したテレビも発売されており、テレビだけでドルビーの映像と音響の両方を体験できます。スマートフォンや PC にも同様に搭載が進んでいます。(一覧表参照)。

## 国内ドルビー対応製品一覧

(2019年9月現在)

1	TV	Dolby Vision	Dolby Atmos	4	オーディオ機器(AV レシーパ)	Dolby Atmos	
	FUNAI	0			Denon	0	
	LG	0	0	]	Marantz	0	
	Panasonic	0	0	]	Onkyo	0	
	Sharp	0%		]	Pioneer	0	
	Sony	0	0%	]	Sony	0	
	TOSHIBA	0		]	Yamaha	0	
				_			•
2	スマートフォン	Dolby	Dolby	(5)	オーディオ機器(サウンドバー)	Dolby	
	A 1 (1D)	Vision	Atmos	-		Atmos	
	Apple/iPhone	0	0%	1	Panasonic	0	
	Huawei		0		Pioneer	0	•
	Samsung		0	]	Sharp	0	•
	Sharp	0	0		Sony	0	
	Sony		0	]	Yamaha	0	
	•						_
3	PC・タブレット	Dolby Vision	Dolby Atmos	6	UHD Bru-ray Player	Dolby Vision	
	Apple/iMac	0%	0%	1	LG	0	•
	Apple/iPad	0	0*	1	Panasonic	0	
	Huawei		0	1	Pioneer	0	
	Lenovo	0	0	1	Sony	0	
	NEC		0	1			
	Samsung		0	7	Digital Media Adaptor	Dolby	Dolby
	DELL	0			g	Vision	Atmos
	(アルファベット順)			-	Amazon Fire TV	0	0
					Apple TV	0	0
					Google	0	0

※搭載予定(発表済)

一方、ドルビービジョン・ドルビーアトモスに対応したコンテンツ配信は、Netflix、ひかり TV(NTT ぷらら)、NTT ドコモ、Apple TV、U-Next、Videomarket、JCOM、acTVila、などがあります。

ドルビージャパンは、「ドルビーシネマ」の増設、視聴機器の更なる充実に加え、「ドルビーシネマ」対応作品や配信向けコンテンツ、スポーツや音楽ライブなどの充実に向けて、関連パートナへのサポート更に強化していきます。

#### 4 まとめ

「ドルビーシネマ」で上映される作品はハリウッドを中心に続々と公開され、その作品数は 250 作品を超えます。「ドルビーアトモス」「ドルビービジョン」により、表現領域が大きく広がり、制作者意図が劇場内で忠実に再現される「ドルビーシネマ」作品は、制作者からも広く支持され、今後も多くの作品が公開される事が期待されます。

2015 年欧州より導入が始まった「ドルビーシネマ」は、北米、中国はじめ世界各地へと拡大し、現在では、導入済、若しくは導入予定のスクリーン数は 400 スクリーン以上となっている。日本においても、昨年 11 月「T・ジョイ博多」でのオープンを皮切りに、現時点で 3 スクリーンが稼働中。10 月 4 日に「丸の内ピカデリー」で都内初の「ドルビーシネマ」がオープンし、今冬までに合計 5 スクリーンまでの導入が決まっています。今後、日本全国に「ドルビーシネマ」展開が拡がり、多くの観客に体験していただき、作品に没入して楽しんでいただけるようになっていく事を願っています。

(参考 1) ドルビーシネマスクリーン国内展開状況(2019 年 9 月 24 日時点)  $T \cdot$  ジョイ博多/ MOVIX さいたま/ 梅田ブルグ 7 / 丸の内ピカデリー(10/4 オープン) ミッドランドスクエアシネマ(今冬オープン予定)

(参考 2) ドルビーアトモススクリーン国内展開状況(2019 年 9 月 24 日時点) TOHO シネマズ仙台/TOHO シネマズららぽーと富士見/イオンシネマ幕張新都心 US シネマ木更津/TOHO シネマズららぽーと船橋/TOHO シネマズ柏 グランドシネマサンシャイン池袋(2 スクリーン)/TOHO シネマズ日比谷 TOHO シネマズ新宿/TOHO シネマズ六本木ヒルズ/TOHO シネマズ日本橋 シネマサンシャイン平和島/ミッドランドスクエアシネマ(2 スクリーン) イオンシネマ名古屋茶屋/TOHO シネマズ赤池/イオンシネマ京都桂川 TOHO シネマズ梅田/TOHO シネマズくずはモール/イオンシネマ和歌山 アースシネマズ(2 スクリーン)/イオンシネマ岡山/シネマザンシャイン下関 TOHO シネマズアミュプラザおおいた/シネマ Q (2 スクリーン)/シネマライカム

Dolby、ドルビー、Dolby Atmos、Dolby Cinema、Dolby Vision、およびダブル D 記号は、アメリカ合衆国と/またはその他の国におけるドルビーラボラトリーズの商標または登録商標です。その他の商標はそれぞれの合法的権利保有者の所有物です。

# 執筆者プロフィール

大沢幸弘 ドルビージャパン株式会社 代表取締役社長

三井物産(株)にて情報産業ビジネス等に従事した後、2005 年 米国 Macromedia 日本法人代表取締役社長に就任。その後、米国 DivX, Inc.アジア総代表から、複数回の(被)買収を通じ、米国 Sonic Solutions アジア総代表(兼)日本法人代表取締役社長、米国 Rovi Corporation の SVP APAC 等を経て、2014 年 3 月ドルビージャパン株式会社 代表取締役社長に就任。東京生まれ 早稲田大学(高等学院及び理工学部)卒

# 台湾 Hi-End Audio ショー 訪問記

# 一般社団法人 日本オーディオ協会 専務理事 森 美裕

概要 8月15日-18日に台北で開催された台湾オーディオ協会主催の Hi-End Audio ショーを 初めて訪問した。その概要について、報告する。

ABSTRACT Brief report of Taiwan Hi-End Audio Show held at Taipei from Aug 15th to 18th.

## 1. はじめに

本年春頃、台湾オーディオ協会(TAA)から依頼があり、初めて、TAA 主催の台湾 Hi-End Audio ショーを訪ねました。会場は、台北の北部にある Grand Hotel という由緒あるホテルで、客室階 3 フロアとイベントフロアでの開催で、約130社の出展という大きな展示会でした。以下に、TAA の事務局からのイベント情報を掲載します。



図 1 イベントのキービジュアル

TAA 29th International Hi-End Show 2019 (TAA HI-END SHOW 2019)

An exhibition of Hi-End and Hi-Fi audio products; Sponsored, organized & managed by TAA-Taiwan Audio Association.

### **Exhibit Information**

Date: August 15-18, 2019 Hours: 10:00 - 18:00 (10 am - 6 pm)

Opening ceremony: 10:00 AM, August 15 at hotel lobby

Venue: Grand Hotel Taipei

Show Rooms: 188 rooms in types

Show Floors: V floor, 2nd, 3rd & 4th floors

# Show summary

Participate of: 128 firms, Use of 180 Show rooms/function rooms, Brands in Worldwide

Number of visitors: 8200 and more

Visitor's age composition: mostly 40~70, 70% shared Visitor's Gender: 75%~80% male

Visitors from: Mostly from Taiwan, Some from Singapore, Malaysia, Hong Kong, Japan,

Korea, Indonesia, Vietnam & Main land China Few from America and Europe

Show complimentary CD published: 12000 copies, Show purchase HQCD(High Quality

CD): 1000 copies.



図2 会場ホテルの外観



図3 ロビーステージの様子

# 2. 会場の様子

台湾 Hi-End Audio ショーの会場は、 台北の北側の丘の上に立つ由緒あるホ テルで、図 2 に示すような外観をして います。ここでは様々なイベントが催 されたり、国賓級の方が宿泊していま す。今回のショーは 2 階、3 階、4 階 の客室と、1 階と 2 階の間にある V 階 というイベントやミーティングを行な うスペースで開催されました。休憩ス ペースなども含めた部屋数は約 190 に なります。

ホテルのロビーでは、図3のように、ステージが設けられ、1日に約4ステージ、4日間で14の演奏が披露されていました。他にもV階の大きな部屋で

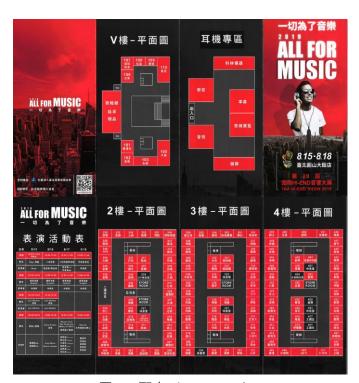


図4 配布パンフレット

トークショーがありました。会場のレイアウトと音楽イベントは、小さい文字になってしまいますが、図 4 のパンフレットで概要をご確認ください。

OTOTEN との違いは、300 元(前売り 200 元)、日本円だと 1000 円ほどの入場料を取っているところです。ただし、ジャズ、クラッシックなどの楽曲 16 曲を収めた CD をもらうことができます。興味深かったのは、いくつかの部屋で、図 5 のようにワインの試飲ができるようになっており、欧州での展示会を思い出させました。



図5 ワインの試飲



図 6 CD 展示・販売



図7 受付の様子



図8 廊下の様子

入場者は有料にもかかわらず、一日 1000 人から 3000 人というところで、4 日間の合計は、事務局の発表によると 8200 人以上ということです。これだけの人数が集まる理由は、一つには CD がもらえるということもありますが、近くの大きな公園(花博公園というらしい)からシャトルバスを運行していること、台北のこの時期の屋外は暑く、昼間は室内で快適に過ごすほうが良いということ、出展ブースでは、多くが展示即売に近い形で、旧モデルを半額くらいまで下げた価格で購入できることなどがありそうです。

また、結構若い人が多いという印象もありました。6 社ですが、ヘッドフォン/イヤフォン展示コーナーがあること、図 6 のように CD や LP が購入できる出展が多くあることなどが、その理由かもしれません。図 6 では平積みですが、壁一面のラックで展示をしているところがほとんどでした。

図7は、1階にある受付の様子です。事前登録し、すでに支払いを済ませている入場者以外は、ここで支払いをします。 そのあと CD を受け取って会場へ向かいます。写真でわかるように、受付はアルバイトの若い方が対応しており、会場の案内も同様です。 こういったところも若い方を呼び寄せるのかもしれません。

#### 3. 出展の様子

出展社が展示している各部屋は、図の廊下の様子からわかるように、廊下の両側にある客室を使ったもので、ダブルの部屋、少といわゆるスイートがありました。写の大きよく見るとわかりますが、いいたりをよく見るとれかりますが、いいたりでは、本の展示会ではほといいる。部屋でするでは、日本のではいかにもです。ですというものでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、いって、日本のの典型例を示さいた。

出展は、日本メーカーのブランドも多くあり、台湾の代理店による出展となっています。もちろん、台湾メーカーの出展も多くあります。多くは代理店による出展しているところもあります。図 10 は TAA 会長の会社の出展で、スイートを使っていますので、隣の部屋に試聴できる展示があります。図 11 は、真空管アンカーやケーブルなどのアクセサリーも扱っている出展社の様子です。

OTOTENの展示と比較すると、一つ一つの部屋は狭いものの、その中できちんと訴求しようという思いが感じられる展示だったと思います。特に、台湾メーカーの展示は、完成品だけでなく、部品やアクセサリーの展示も多く、それぞれ、意欲的な説明をされているようでした。



図 9 展示例



図 10 台湾ブランドの出展例



図 11 台湾ブランドの出展例













図 12 日本ブランドの展示の様子

図 12 に一部ですが、いくつかの日本ブランドの出展の様子を示します。日本語の表記をそのまま使っているところもあり、Made in Japan に価値を認めていただいているのかもしれません。もちろん、欧州、北米のブランドも多く出展されています。図 13 にその様子を示します。多くは、日本でもよく知られているブランドですが、中にはあまり知らないブランドもあります。ケーブルなどのアクセサリー、ヘッドフォン/イヤフォンも多数展示されていました。









図 13 欧米ブランドの展示の様子

## 4. 最後に

今回初めて、台湾のオーディオショーを訪ねましたが、日本以上に活気があると感じました。特に若い方が多いのが印象的でした。実際に購入されている年齢についてはわかりませんが、理由の一つに、台湾には若い方の興味の対象となるようなレジャーが、日本の都市と比較すると少ないということがあるのかもしれません。しかしながら、食べ物以外にも台湾のエネルギーを大いに感じた訪問でした。興味深いスピーカーなどの展示もあったのですが、言葉の問題もあって、詳しい説明をあまり聞くことができなかったのが残念です。ここで紹介した以外にも多数のブランドが展示されていましたが、紙面の都合もあり、割愛させてもらいました。日本とは少し違った展示会の例として参考になれば幸いです。なお、TAA および台湾 Hi End Audio ショーの公式の案内は、最後にある TAA の Web ページから確認ができます。残念ながら、基本中国語ですが、出展社の Web ページへのリンクもありますので、出展社については、確認できるかと思います。

最後に、台湾 Hi-End Audio ショー訪問の機会を与えていただいた、TAA Chairman の KC Huang 氏と TAA International Group, Convener の Vincent Chang 氏に感謝いたします。



# 執筆者プロフィール

森 美裕(写真中央)

(一社)日本オーディオ協会 専務理事

(写真右) TAA Chairman KC Huang

(写真左) TAA Convener Vincent Chang

About Taiwan Audio Association (TAA)

TAA was formerly known as Taiwan Audio Import & Sale Distributor Sociable.

Its purpose is to bring all members together with the aim of creating a stronger force among each other as well as helping in promoting of Hi-End audio & industries in Taiwan.

TAA was reformed and first established in 1994, bearing license

No. 83-Tai-Nei-Sa-Chi 8377524. And we were renamed to "Taiwan Audio Association" in 1999 with license No. 88-Tai-Nei-Sa-Chi 885107. Then we were registered to a juridical association at Taipei District Court in 2003 with No. 961.

TAA is formed by 150 manufacturers; including major import agents. self-owned brand and record & software firms.

#### Scope

- To step-up the pore of audio promotions and developments
- To bring to the public attention of the existence of high-end audio with the provision in educating the public towards a better understanding of high-quality audio system
- To create a new avenue for consumers in attaining a more comprehensive fulfillment of life through the appreciation of music
- To bring people in tone with music together
- To reinforce all members together in order to ensure the stability & growth of the business

#### Responsibilities

- To promote Hi-End audio through proper sales & marketing as well as organizing of exhibitions, tradeshow, sources etc.
- To up bring the sense of enthusiasm & professionalism among members

TAA is the one and only Hi-End audio organization in this country who can provide members with the experiences & expertise in promoting Hi-End audio in Taiwan

See also: <a href="http://www.taiwanaudio.org.tw/include/html/english/emain.html#">http://www.taiwanaudio.org.tw/include/html/english/emain.html#</a>;

Chinese Page: http://www.taiwanaudio.org.tw/2017/index.html

# 編集後記

# 編集委員/NTT 未来ねっと研究所株式会社 吉野 修一

今年は、過去最多の猛暑日が観測された非常に暑い夏となりました。そのため、私は、夏休みを買いためた映像・音楽メディアの鑑賞で過ごしましたが、皆様は、どう楽しまれたでしょうか? さて、今月号では、最新の映像・音響技術として、ドルビーラボラトリーズの「ドルビーシネマ」を紹介いたしました。映画館で得られる「臨場感」や「没入感」は、高度に発展した技術と 緻密に計算された環境によって作り出されていることが、ご理解いただけたかと思います。

私自身、最近は、すっかり技術の発展に甘え、音楽や映画の鑑賞は、家庭でネットを活用し、ヘッドホンで楽しむことが主体となっていましたが、このような記事に触れることで、迫力ある環境で楽しみたくなりました。昔に楽しんだ映画の続編が、今後続々と公開される予定もあり、是非、これらを最新の劇場で楽しみたいと思っています。その前に、これから暦は秋に入り、夜が長く過ごしやすくなる季節であり、この時間を利用して、視聴環境のアップグレードと前編の復習を計画中です。オーディオ協会のホームページではJASジャーナルやイベント紹介の他に、最新技術や機器・ソフトを紹介しております。秋の夜長を楽しく過ごす参考になれば幸いです。

# ☆☆☆ 編集委員 ☆☆☆ (委員長) 松岡 文啓(三菱電機(株))

(委員) 大久保 洋幸 (NHK 放送技術研究所)・吉田 穣 (ティアック (株)) 仲田 剛 (三菱電機 (株))・春井 正徳 (パナソニック (株))・細谷 耕佑 (三菱電機 (株)) 村田 明日香 (シャープ (株))・吉野 修一 (NTT 未来ねっと研究所 (株))

発行人:小川 理子

一般社団法人 日本オーディオ協会

〒108-0074 東京都港区高輪 3-4-13

電話: 03-3448-1206 FAX: 03-3448-1207

URL: http://www.jas-audio.or.jp